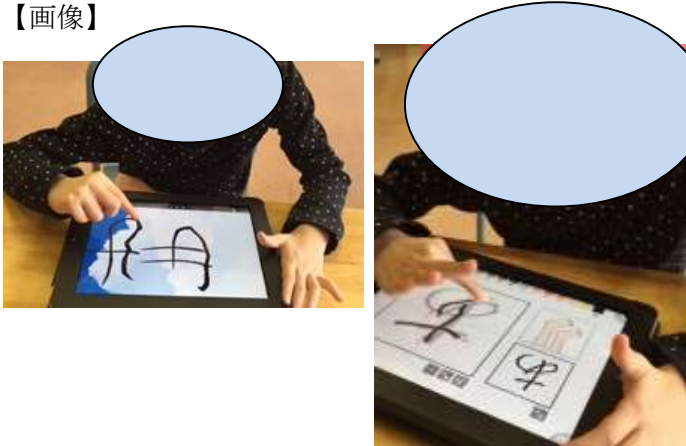


教材・支援機器活用実践事例

【筆圧が弱く、書くことが困難な児童への支援】

子どもについて	学校・学級・学年	小学校 知的障がい特別支援学級 中学年	
	対象の障がい	肢体不自由を伴う知的障がい	
	授業形態	個別学習	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	握力が弱く、指先にも力が入らないため、鉛筆を持つことは難しい。補助具を付けたペンを使えば、手本のなぞり書きをすることができるが、時間がかかってしまい、本人の負担が大きい。	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットパソコン ○アプリ 「かなもじ」 「hiragana」 「zen brush」 	<p>【画像】</p> 
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鉛筆を持たずに指で書くことで、児童の負担を軽減し、文字を書くことに集中できるようにする。 ○ 指先でなぞることで、文字の形を正しく認識できるようにする。 	
授業における支援 ・教材の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書くことの負担が大きいので、基本的に読みに重点をおいて指導を行っている。書くことの指導を行うときのみ、タブレットを活用している。 ○ 本児がタブレットを使うことについて、同じ学級の児童の理解を得るため、タブレットを使う理由を説明し、理解を促す。それを認め合える学級作りをする。 		
子どもの変容や評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆記具を使わず指でなぞることで、書くことをいやがらずに楽しんで学習に取り組むことができた。 ○ ペンを持って書く場合は、書く作業自体の負担が大きいため、指で書ける文字でも書くことは難しい。しかし、タブレットの場合は文字の形に意識を集中して書くことができるため、正しく書くことができる。 ○ タブレットを使うと負担が少ないため、使うことを楽しみにしている。タブレット自体がゲーム感覚で使うことができるため、意欲も高めることができる。ただし、単なる遊びにならないように、声をかけて学習を意識して取り組めるようにした。 ○ 今後も、読みの指導に重点を置くことにかわりはないが、書くことの指導の場面で積極的に活用していきたい。 		